

病理診断科 初期研修プログラム

必ず習得するアウトカム

1. 病理診断の基本
2. 症例発表の基本

研修目的

病理診断は最終診断を担っており、診療、治療において果たす役割は極めて重要である。臨床各科から依頼を受ける種々の病理診断を経験し、その内容、役割を理解する。また、病理診断結果から臨床各科の各種疾患の病態の理解を深める。

研修目標

◇ 一般目標

病理診断(組織診断、術中迅速診断、細胞診断、病理解剖)を経験し、それぞれの具体的作業内容、役割を理解する。病理解剖症例のCPCレポートを作成し、症例報告のまとめ方について学ぶ。

◇ 行動目標

- 1) ホルマリン固定、肉眼所見の観察や記載、切り出しなど手術切除臓器、組織標を適切に扱うことができる。
- 2) 組織診断標本や細胞診断標本の作製過程について述べるができる。
- 3) 免疫染色の原理、適応、評価について述べるができる。
- 4) 組織標本による遺伝子解析について述べるができる。
- 5) 凍結組織標本の作製過程について述べるができる。
- 6) 術中迅速診断の役割、適応疾患について述べるができる。
- 7) 主要な疾患の組織診断標本を観察し、その所見を記述することができる。
- 8) 主要な疾患の細胞診断標本を観察し、その異常細胞所見を理解できる。
- 9) 病理解剖やCPCの意義について述べるができる。
- 10) 臨床経過、肉眼的解剖所見、組織学的所見を総合した病理解剖診断を理解できる。

◇ 研修期間中に経験可能な疾患・疾病、および手技

期間中に臨床各科から病理診断の依頼を受ける症例(500件程)。
依頼症例に関連した過去の既診断症例の再観察も可能。

研修方略

組織診断において、研修医は指導医とともに手術切除臓器、組織の切り出しを行い肉眼所見の観察や記載を行う。生検組織や手術切除臓器、組織から作製された組織標本を観察した後、指導医とディスカッションしながら組織診断を行う。

術中迅速診断において、研修医は指導医とともに組織の取り扱いや診断を行う。

細胞診断において、細胞検査士、指導医とともに標本の観察を行い、診断の場に立ち会う。

病理解剖において、研修医は指導医の介助あるいは見学者として解剖に立ち会う。

研修評価

研修態度、カンファランスへの参加状況などを総合し評価する。

週間予定表

	午前	午後	夕方
月	組織診断 切り出し	組織診断 細胞診断	
火	組織診断 切り出し	組織診断 細胞診断	
水	組織診断 切り出し	組織診断 細胞診断	カンファランス
木	組織診断 切り出し	組織診断 細胞診断	カンファランス
金	組織診断 切り出し	組織診断 細胞診断	

術中迅速診断(随時)

病理解剖(随時)

指導責任者および指導医

指導責任者：村上一宏（病理診断科 科長）

指導医：村上 圭吾（病理診断科）

〃：中村 保宏（病理学教室 教授）